



2022年3月期決算 補足説明資料

2022年 5月13日（金）

ウェーブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
（東証スタンダード市場）

- 2022年3月期業績報告
- 2023年3月期業績予想
(中期3か年計画の2年目)
- 株主還元
- APPENDIX

2022年3月期業績報告

■ 売上高 21,002百万円 (前年同期比△28.2%、予想比+3.0%)

- 前年同期実績からインテリア事業を連結対象外とした参考値 (20,173百万円) に対して+4.1%
- **マテリアルソリューション事業、アドバンステクノロジー事業ともに売上高は前年同期比増加**

■ 営業利益 649百万円 (前年同期比△56.4%、予想比△13.4%)

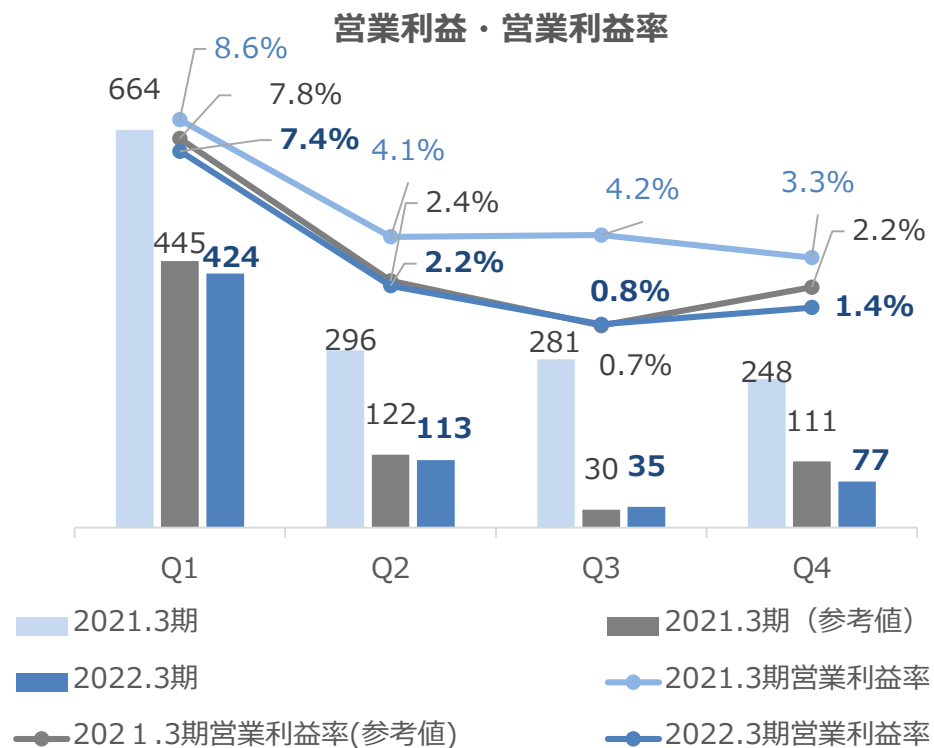
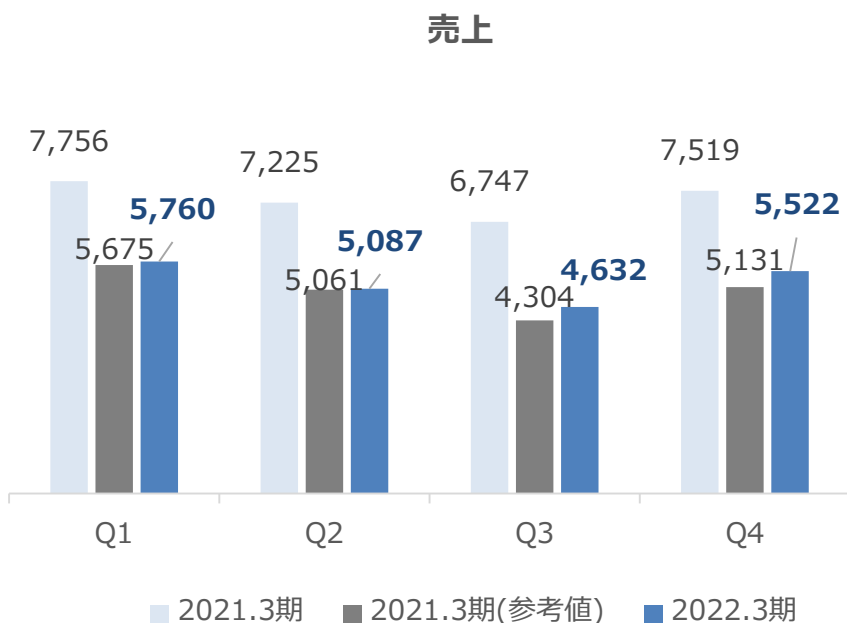
- 前年同期実績からインテリア事業を連結対象外とした参考値 (709百万円) に対して△8.4%
- 第3四半期までは概ね想定どおりに推移したものの、第4四半期に失速。**業績予想750百万円に対し100百万円未達**
- 原材料価格の高騰により、**第4四半期のマテリアルソリューション事業において想定を超える原材料仕入負担 (想定比約125百万円増)**が発生したことが主要因
- 原材料価格の指標となるナフサ価格は、第3四半期までの平均価格46,660円/kl程度に対し、第4四半期は60,700円/klと約1.3倍に上昇
- なお、高付加価値製品を扱う**アドバンステクノロジー事業は前年同期比340.3%増**。自動車向け販売の好調により利益率も上昇

■ 当期純利益 655百万円 (前年同期比△72.6%、予想比△14.9%)

- 前年同期はインテリア事業を営む (株) ウェーブロックインテリア (現: クレアネイト (株)) 株式譲渡により子会社株式売却益を計上

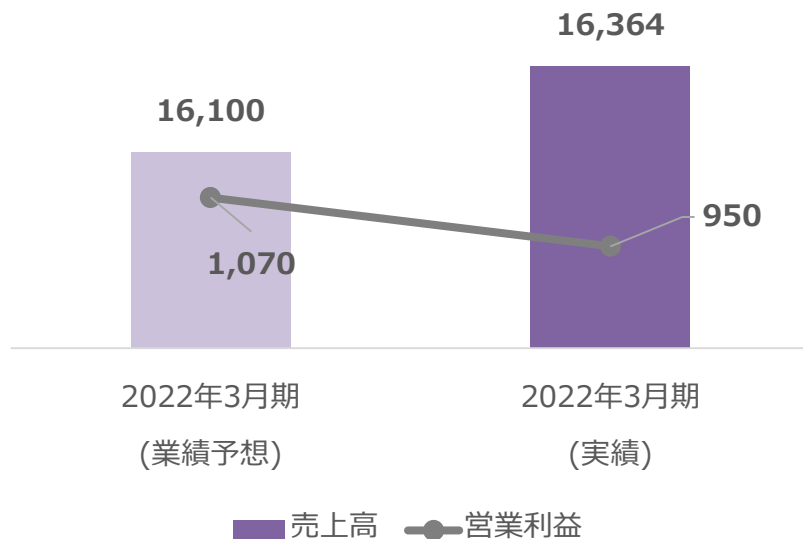
2021年3月期実績・参考値と2022年3月期の四半期推移

(単位：百万円)



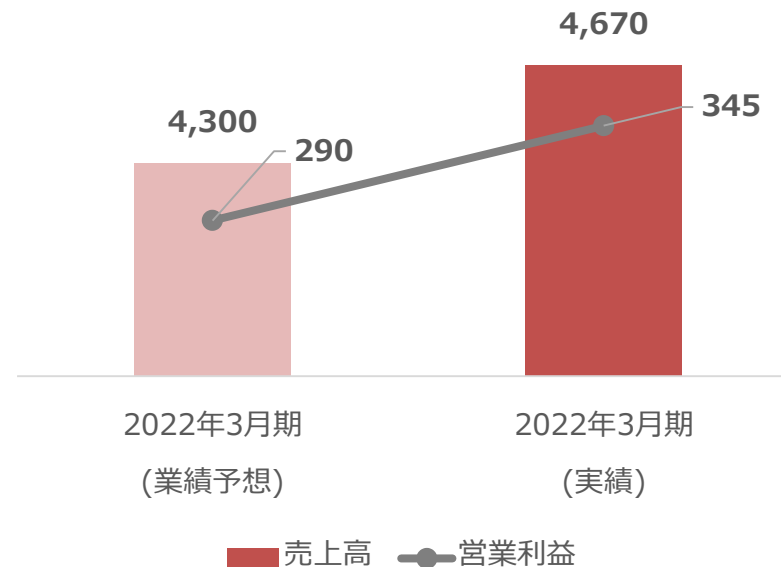
※2021年3月期参考値は、実績値からインテリア事業に係る損益計算書および（株）ウェーブロックインテリア（現：クレアネイト（株））株式譲渡による影響を除外

マテリアルソリューション事業



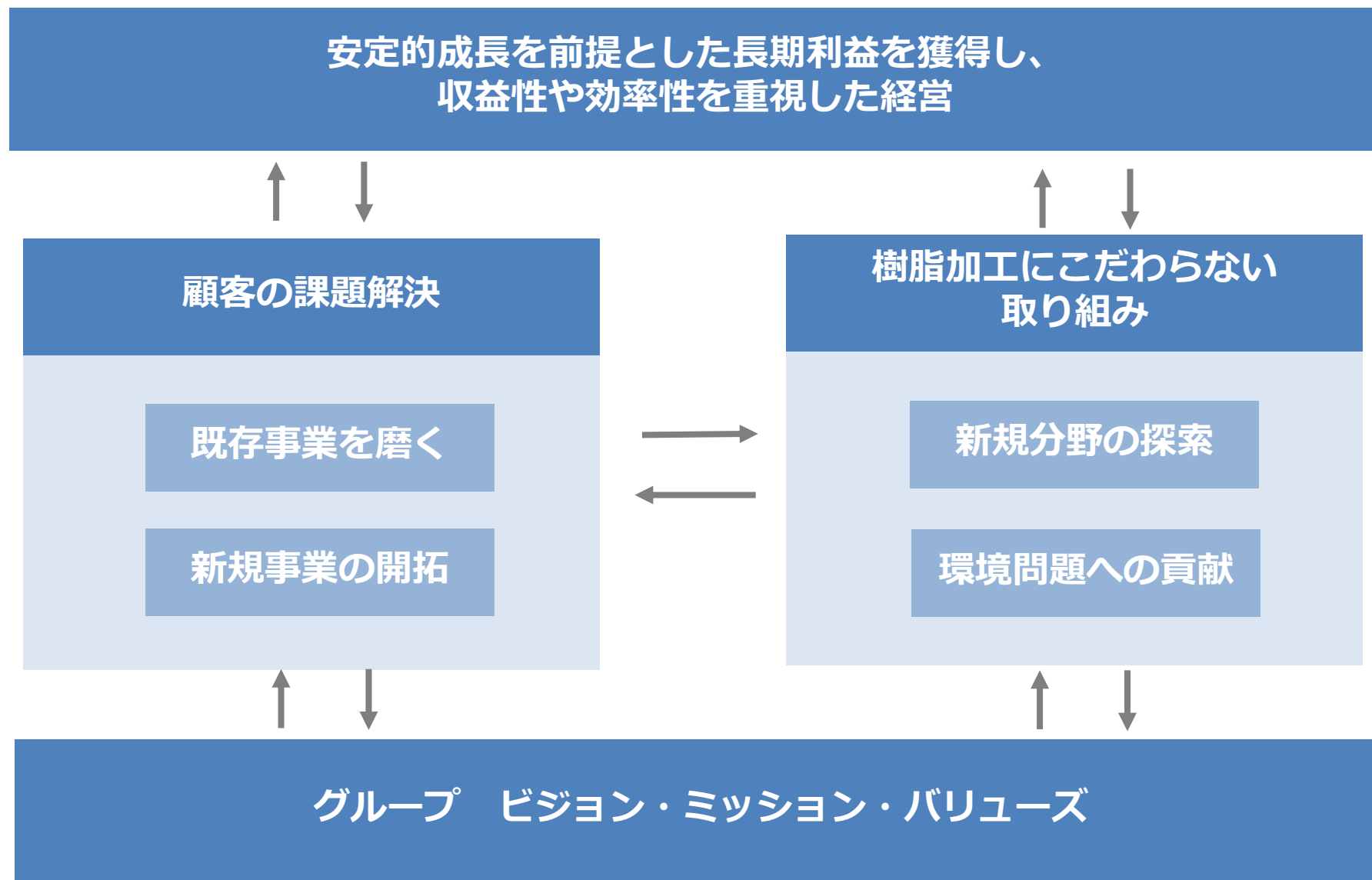
- 売上高は業績予想を達成
- リビングソリューションにおいては主力製品である張替用防虫網等が前期好調の反動減により苦戦するも、他商材を販売する等の営業努力により売上予想を達成
- 一方、営業利益では想定以上の原材料価格上昇により、全分野で予想を下回る

アドバンステクノロジー事業



- 金属調加飾フィルムおよび内装ディスプレイ用途における自動車向け販売が好調に推移し、売上高、営業利益ともに業績予想を達成
- 営業利益では、第4四半期に材料の減損処理など約84百万円を計上したものの、業績予想を大幅超過

2023年3月期業績予想 (中期3か年計画の2年目)



- 売上高では、2022年3月期比および中期計画比ともに増加
- 一方、営業利益では原材料価格高騰の影響を受け、2022年3月期比および中期計画比ともに下回る見込み
- 当期純利益では、クリアナイト（株）（旧：（株）ウェーブロックインテリア）の株式譲渡により、第1四半期に特別利益2,528百万円を計上見込み。これにより同社の全株式の譲渡完了
- 業績予想の前提
ナフサ価格：70,000円/kl~80,000円/kl
為替：125円/USD

(単位：百万円)

	2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (業績予想)	前期比 増減率	2023年3月期 (中期計画)	中計比 増減率
売上高	21,002	24,400	+16.2%	23,100	+5.6%
営業利益	649	590	△9.2%	940	△37.2%
経常利益	903	595	△34.1%	1,240	△52.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	655	2,130	+225.2%	950	+124.2%
1株あたり 当期純利益※	69.73	252.49	-	-	-

※発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2022年3月期は9,394,949株、2023年3月期は8,435,849株で計算しております。

■ マテリアルソリューション事業

原材料価格の高騰により利益獲得が難しい局面。競合優位性の確立や差別化により、原材料価格の動向に左右されづらい事業への転換を目指す

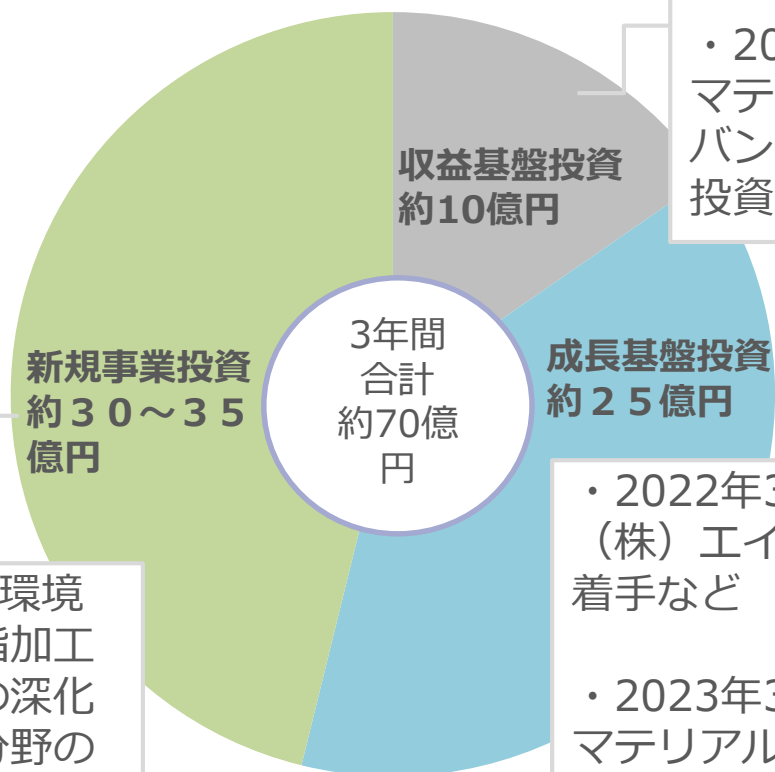
- 自社の得意分野や優位性のある分野への特化
 - 製品だけでなくサービスや営業力における差別化
- 価格転嫁を許容いただける製品、サービスの提供が可能な事業へと成長していく

■ アドバンステクノロジー事業

自動車向けに、金属調加飾フィルム（電波や光を透過し、製造過程で環境負荷が低い特長を持つ）や、多層フィルム（高透明で歪みが少ない特長を持つ。大型化するセンターインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイ向けの販売が主）の販売拡大を目指す

- 世界の自動車市場で起きている大変革は追い風となり、当社製品の需要は高まる見通し
- 市場のニーズに沿った開発・生産体制をさらに高めるための投資を実行

2021年3月期から2023年3月期までの3年間に 重点領域を見極め、投資を実行



・2022年3月期実績：3.6億円
主にマテリアルソリューション事業の設備へ投資

・2023年3月期：約8.1億円（予定）
マテリアルソリューション事業、アドバンステクノロジー事業ともに積極投資を予定

ICTプラットフォームや環境関連製品事業など、樹脂加工には拘らず、既存事業の深化や強みを活かせる新規分野の探索を推進

・2022年3月期実績：0.5億円
（株）エイゼンコーポレーション株式取得に着手など

・2023年3月期：約16.6億円（予定）
マテリアルソリューション事業における地中熱ビジネス展開強化、アドバンステクノロジー事業拡大のための積極投資を予定

※投資金額は事業供用開始時を基準に記載

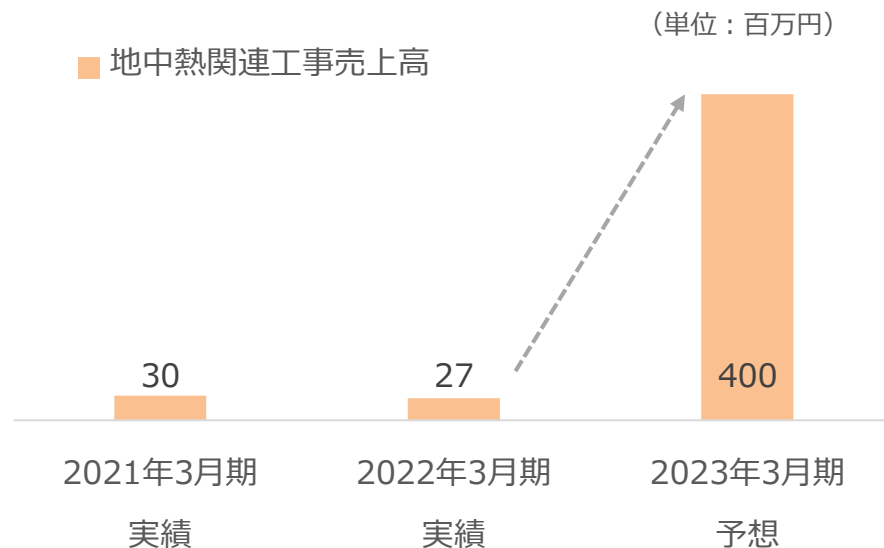
- 当社収益の基盤事業。基盤の更なる強化に加え、新規領域へチャレンジ
- 環境関連ビジネスと海外関連事業開拓への取り組み強化を3カ年計画の柱とする



地中熱ビジネスの展開

- 建設業許可を保有する（株）エイゼンコーポレーションの全株式を取得（2022年2月16日および2022年4月1日開示）し、2023年3月期より同社を連結
- 地中熱関連設備工事の元請となることが可能になり、地中熱ビジネスの売上拡大および利益率向上を見込む
- マテリアルソリューション事業の既存事業と相乗効果のある販売を推進

● 既存事業と地中熱ビジネスのシナジーの例



環境対応素材製品の展開

- スジャータめいらくグループで2021年10月18日に発売された業務用ミルクポーションに当社製品が採用
- ポーション型コーヒーフレッシュでは業界初となる植物由来のバイオマスプラスチックを配合
- 今後、同社の他製品にも展開が見込まれる

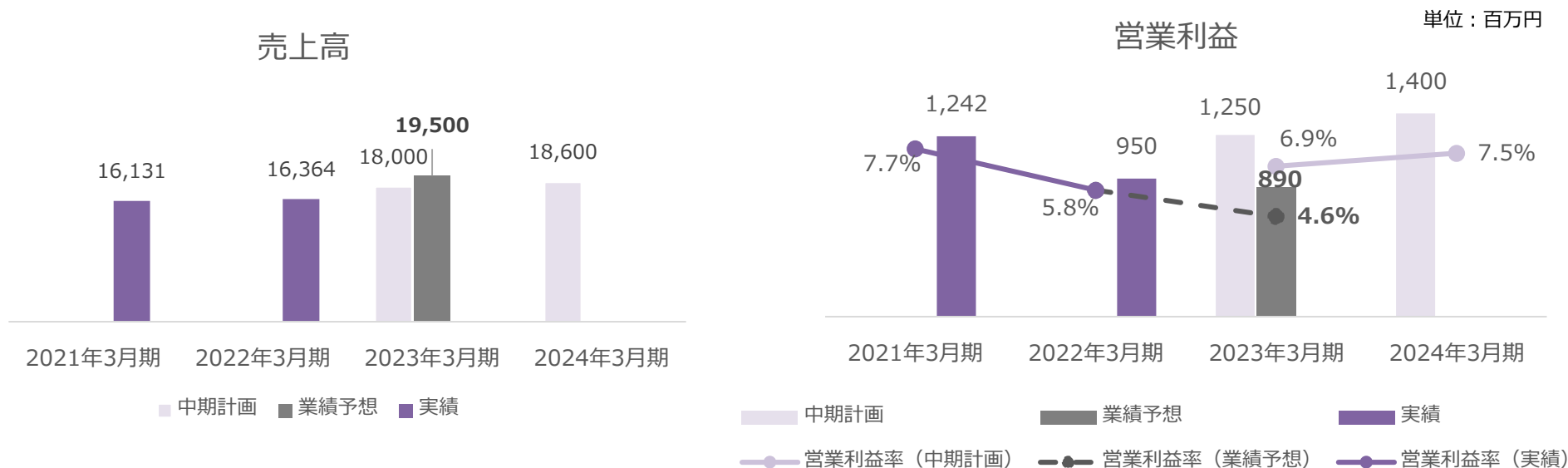


【商品名】

ECO SUJAHTA4.5

商品特徴

- ・ 香料不使用で豊かなミルクの風味を味わえます。コーヒーを引き立て、より美味しくします。
- ・ ポーション容器の一部にバイオマスプラを配合しています。
- ・ 持続可能な原料としてRSPO認証油を使用しています。
- ・ 鮮度維持のため、茶色容器を使用しています。
- ・ 酸化防止剤不使用です。



売上高 19,500百万円 (前期比+19.2%、中計比+8.3%)

営業利益 890百万円 (前期比△6.3%、中計比△28.8%)

- 今期より (株) エイゼンコーポレーションを連結。これにより売上高1,395百万円 (うち地中熱ビジネスの売上高400百万円) 増加を見込む。地中熱ビジネス案件対応のための人員採用に注力
- 引き続き生産効率向上に注力するとともに、ソリューションを伴う販売や地中熱ビジネスの展開、環境負荷軽減製品など製品性能の改善による競合との差別化を図ると同時に、一定の利益率を維持するために原材料価格上昇分の売価転嫁値上げを実施予定
- 売上高は全分野で前年同期比増加を見込むものの、原材料価格上昇のため営業利益は減少の見込み

技術とデザインによる品揃え拡充と、品質・ネットワークによる顧客サービスの向上で、自動車内外装プラスチック部品の市場成長を取り込む

戦略1. 技術開発・製造基盤の整備への投資

戦略2. 強固な品質管理システムの構築

対応

- 品質向上、生産能力増強のための投資を実行
- それに伴う品質管理体制強化のため、IATFを2023年3月期に取得予定

戦略3. 海外（北米・欧州・中国）の販売力強化

対応

- 実際に起きている事象を、足を運んで確認し、変化を掴むことにより、柔軟な営業戦略を構築
- マーケティング情報をタイムリーに技術チームにインプットし、開発、試作サイクルスピードを上げ、さらなる成長を目指す

採用事例

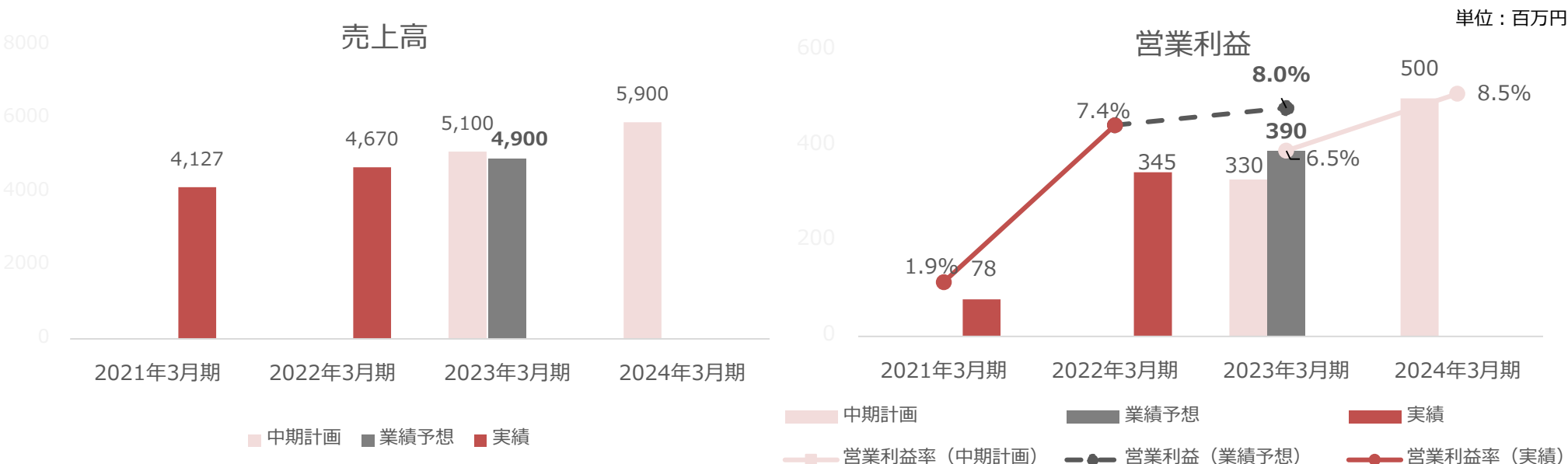
- 北米新興EVメーカー「リビアン」のピックアップトラック「R1T」に続き、SUV車「R1S」のスキッドプレートへ**金属調加飾フィルム**を供給
- 同社は環境に配慮された部品の搭載を目指しており、製造過程で環境負荷が高いメッキ加工品の代替として採用された



- 独VWの小型EV「ID.3」に続き、SUVタイプのEV車「ID.4」のヘッドアップディスプレイ向けに、**内装ディスプレイ向け多層フィルム**を供給
- 「ID.4」は2022年内に日本市場への投入も計画されている
- 高透明で歪みが少なく、硬度、耐衝撃性、耐候性を確保したうえで安価であることが評価され採用
- 大型化するセンターインフォメーションディスプレイ向けにも採用拡大を図る



「ID.4」のヘッドアップディスプレイ（欧州仕様車）。フロントガラスに走行情報が浮かび上がる



売上高 4,900百万円（前期比+4.9%、中計比△3.9%）
営業利益 390百万円（前期比+12.8%、中計比+18.2%）

- デコレーション&ディスプレイ分野における自動車向け販売は売上高・営業利益ともに前年同期比増加を見込む。新興EVメーカーであるリビアン向け外装用途や、5月より順次発売されるGMキャデラックブランド初のEV車「キャデラック・リリック」向け光透過エンブレムおよび内装パーツ販売等による北米向け売上高増加を期待。成長基盤強化のための投資を進めることにより、減価償却費などのコスト増を予定
- その他、医療品印刷および開封テープは前年同期同等。ディスプレイ用拡散板販売は売上高、営業利益ともに前年同期比減少

株主還元

■ 基本方針

- 配当性向**35%以上**を目安に、単年度の業績ボラティリティに左右されない安定的な配当を維持

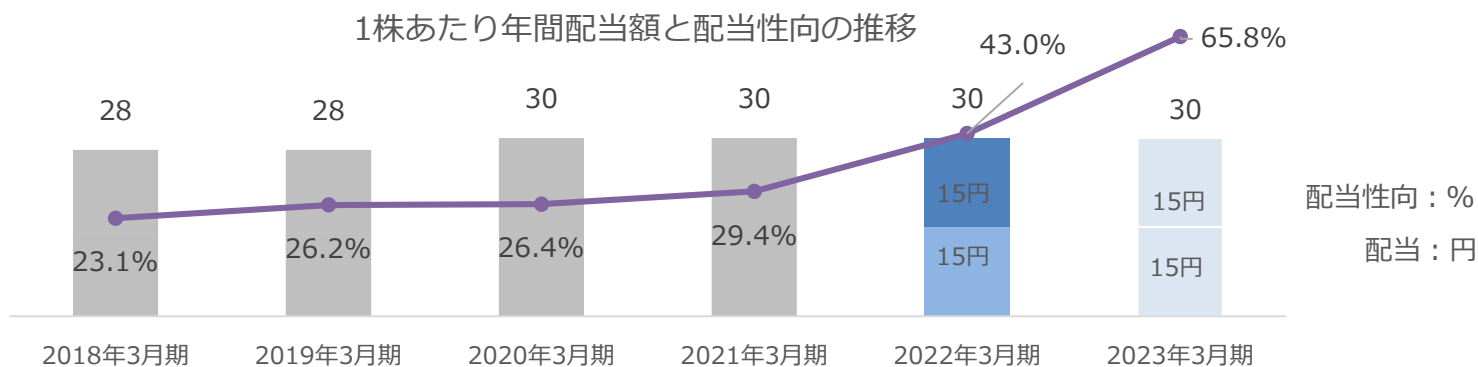
上記基本方針における「安定的な配当」を行うことを重視し、2022年3月期、2023年3月期の配当は以下の通りといたします。

■ 2022年3月期 配当

- 通期30円（第2四半期末、期末それぞれ1株あたり15円）
- 配当性向：43.0%

■ 2023年3月期 配当見通し

- 通期30円（第2四半期末、期末それぞれ1株あたり15円）
- 配当性向：65.8%（クリアネイト（株）（旧（株）ウェーブロックインテリア）株式譲渡による影響を除いて算出）



※ 2020年3月期までの配当性向は負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向（負ののれんは2020年3月期に償却が終了）

※ 2021年3月期および2023年3月期の配当性向はクリアネイト（株）（旧（株）ウェーブロックインテリア）株式譲渡による影響を除いて算出

APPENDIX

2021年3月期実績および業績予想との比較

(単位：百万円)

	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (実績)	前期比 増減率	業績予想	予想比 増減率
売上高	29,248	21,002	△28.2%	20,400	+3.0%
営業利益	1,489	649	△56.4%	750	△13.4%
経常利益	1,428	903	△36.8%	1,070	△15.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,386	655	△72.6%	770	△14.9%
1株あたり 当期純利益※	244.82	69.73	-	82.0	-

※発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2021年3月期は9,748,354株、2022年3月期は9,394,949株です。

- 2021年3月期実績からインテリア事業譲渡による影響を排除し比較
- 売上高は前期参考値を超えるも、営業利益では下回る

(単位：百万円)

	2021年3月期 (参考値) [※]	2022年3月期 (実績)	前期（参考値） 比増減額	前期（参考値） 比増減率
売上高	20,173	21,002	+829	+4.1%
営業利益	709	649	△ 59	△ 8.4%
経常利益	953	903	△ 49	△ 5.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	622	655	+33	+5.3%

※インテリア事業に係る損益計算書および（株）ウェーブロックインテリア（現：クリアネイト（株））株式譲渡による影響を除き、同社連結2021年3月期当期純利益の49%相当を持分法による投資利益として経常利益に計上

- 資産合計 24,255百万円
- 自己資本比率 54.6%→56.6%

(単位：百万円)

資産合計	△ 1,836	負債・純資産合計	△ 1,836
流動資産	△ 2,350	負債	△ 1,308
現預金	△ 2,920	営業負債	△ 67
営業債権	△ 739	有利子負債・社債	△ 869
棚卸資産	+984	退職給付引当金	+10
その他	+324	その他	△ 381
固定資産	+514	純資産	△ 528
固定資産	+330	株主資本	△ 625
その他	+184	その他の包括利益他	+97

投資有価証券 +
233

- 当期純利益純利益 +655
- 配当支払い △295
- 自己株式取得等 △984

■ 現金及び現金同等物 1,961百万円 (△2,920百万円)

(単位：百万円)

2022年3月期	
税金等調整前当期純利益	891
減価償却費	569
退職給付に係る負債	29
運転資本増減	△ 259
固定資産売却・除却損益 (△は益)	11
その他	△ 1,163
営業キャッシュ・フロー	78
固定資産の収支	△ 845
その他	△ 4
投資キャッシュ・フロー	△ 850
フリーキャッシュ・フロー	△ 771
借入金・社債の収支	△ 869
自己株式の取得	△ 999
配当金の支払	△ 294
その他	△ 20
財務キャッシュ・フロー	△ 2,184
換算差額	35

- ・ 売上債権の減少 771
- ・ 棚卸資産の増加 △925

- ・ 有形固定資産の取得 △778

- ・ 借入金の返済

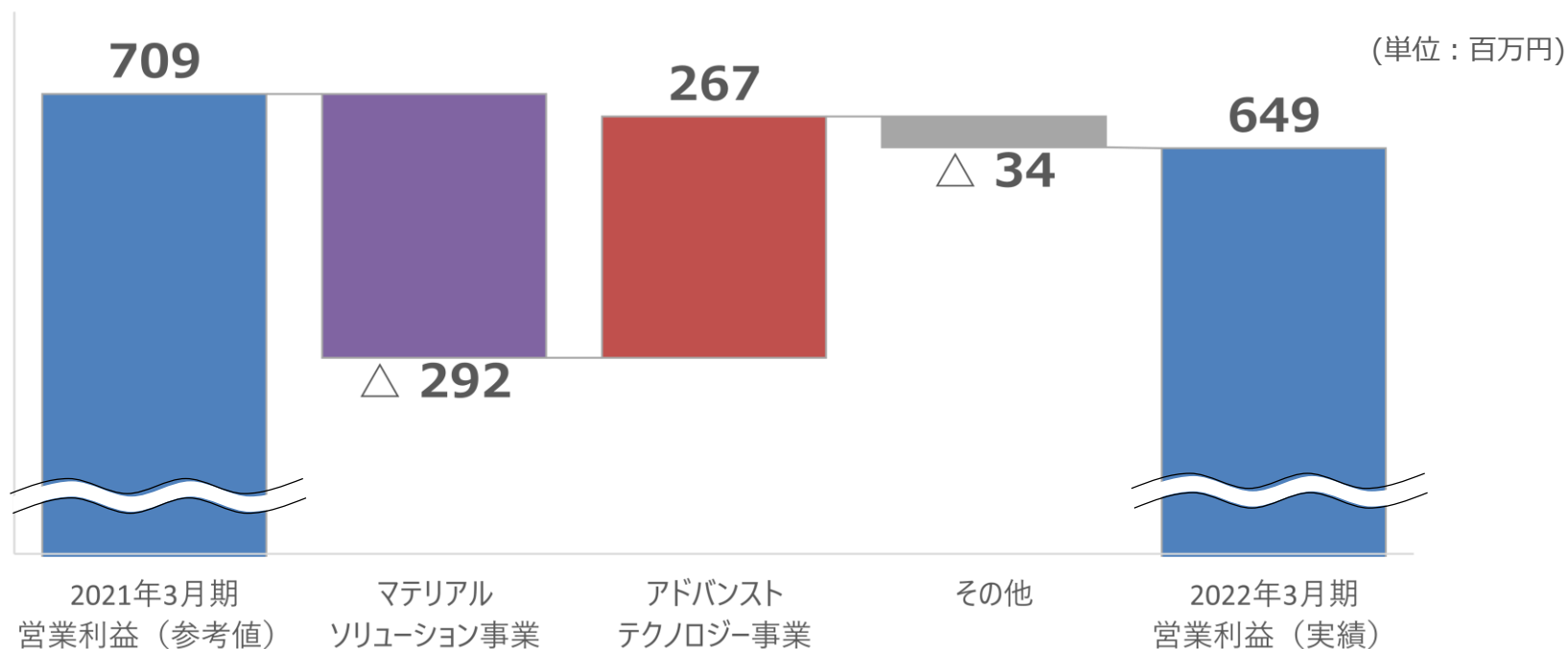
- ・ 自己株式の取得

(単位：百万円)

	2021年3月期※ (参考値)	2022年3月期 (実績)	前年同期比 増減率	業績予想	予想比
売上高	20,173	21,002	+4.1%	20,400	+3.0%
材料ソリューション	16,131	16,364	+1.4%	16,100	+1.6%
アドバンステクノロジー	4,127	4,670	+13.2%	4,300	+8.6%
その他	△ 86	△ 32	-	-	-
営業利益	709	649	△8.4%	750	△13.4%
材料ソリューション	1,242	950	△23.6%	1,070	△11.2%
アドバンステクノロジー	78	345	+340.3%	290	+19.2%
その他	△ 611	△ 645	-	-	-

※インテリア事業に係る損益計算書および（株）ウェーブロックインテリア（現：クリアネット（株））株式譲渡による影響を除外した参考値

営業利益 増減要因（前年同期参考値比）



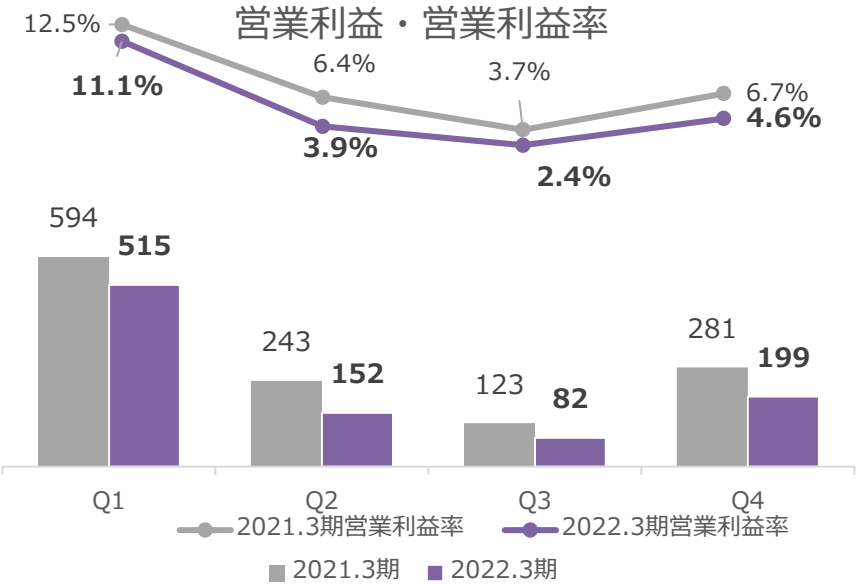
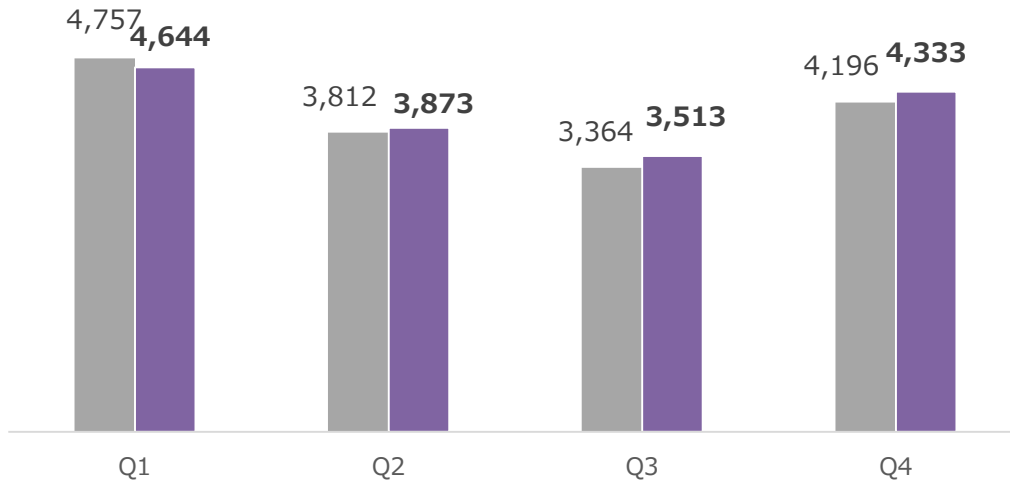
- 売上高増加による利益増 + 60
- 製造原価増加による利益減 △ 561
- 販売促進費など販売管理費の減少 + 208

- 金属調加飾フィルムの売上高増加による利益増 + 196
- 自動車内装ディスプレイ用途販売の黒字化 + 150
- 開発費、人件費の増加 △ 80

※2021年3月期営業利益（参考値）はインテリア事業に係る損益計算書および（株）ウェーブロックインテリア（現：クレアネイト（株））株式譲渡による影響を除外

単位：百万円

売上高



リビングソリューション：

- ホームセンター向け販売は前期好調の反動減により苦戦。3月末からのシーズンインは概ね想定通りのスタートも原材料価格上昇や相対的に利益率の高い製品の販売減少により利益率低下。売上高・利益ともに前年同期比大幅減

ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション：

- オリンピック関連向けやワクチン接種会場向けフロアシート特需や建設・仮設工事関連向け販売堅調により売上高は前年同期比増加。一方、原材料価格上昇や相対的に利益率の高い製品の販売不振により利益は大幅減

パッケージングソリューション：

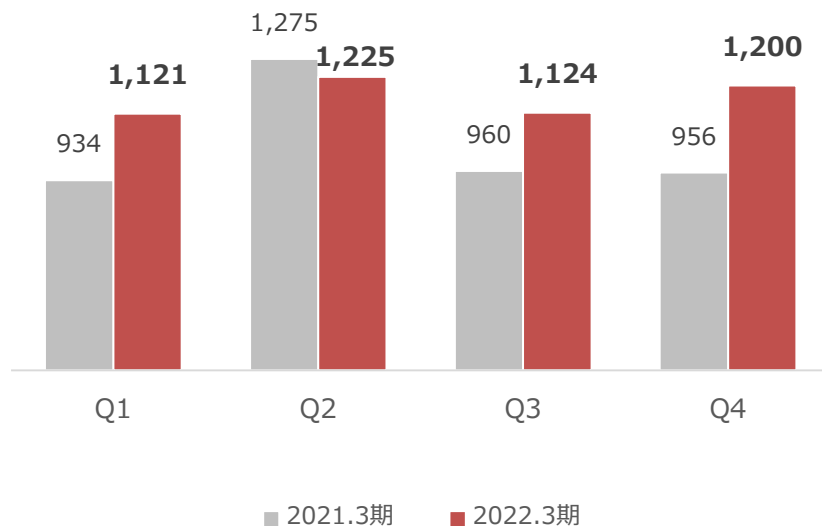
- 値上げ実施により一部では他社製品への切替があったものの、食品容器やヨーグルト容器向け販売の好調もあり売上高は前年同期比増加。一方、原材料価格上昇により利益は大幅減

アグリソリューション：

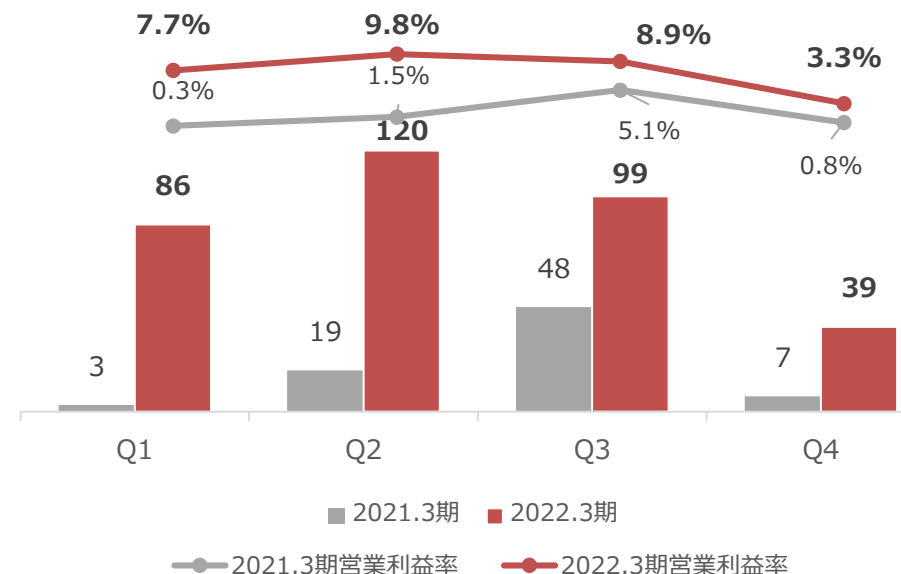
- 農業への投資意欲が復調傾向。土壌改良剤、遮光ネット等の資材販売が引き続き堅調。林業向け資材なども好調に推移し、売上高は前年同期比プラス。一方、原材料価格上昇により利益は減少

単位：百万円

売上高



営業利益・営業利益率



デコレーション&ディスプレイ（金属調加飾フィルムおよびPMMA/PC2層シートから名称変更）：

- 金属調加飾フィルムにおいては、北米自動車メーカー向けおよびインド・東南アジア2輪車向け販売の好調が、中国自動車メーカー向け販売の低調をカバー。国内自動車メーカーの小型SUV向けドアハンドル販売も堅調。売上高・利益ともに前年同期比大幅増加。第4四半期に材料の減損処理、滞留在庫などの処分費用（約64百万円）を計上
- 自動車用内装ディスプレイ用途においては、新規案件の立ち上げや既存案件の横展開により好調。製造工程の見直し等により生産効率も改善。第4四半期には突発的な品質トラブル発生や滞留在庫の処分費用を計上（約20百万円）するも、通期では赤字を脱出し利益に貢献。

その他：

- ディスプレイ用拡散板は前年同期の特需が落ち着き、売上高・利益ともに前年同期比減となるも、引き続き安定した数量を受注

本資料における見通し等は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。